

令和5年6月30日

令和4年度 特別の教育課程の実施状況等について

北海道		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
東川町立東川小学校（外4校）	東川町教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
東川町立東川小学校	https://onl.bz/TQQ9w32
東川町立東川第一小学校	https://x.gd/OLpoC
東川町立東川第二小学校	https://x.gd/OLpoC
東川町立東川第三小学校	https://x.gd/OLpoC
東川町立東川中学校	https://x.gd/OLpoC

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
東川町立東川小学校	https://onl.bz/TQQ9w32	
東川町立東川第一小学校	https://x.gd/OLpoC	
東川町立東川第二小学校	https://x.gd/OLpoC	
東川町立東川第三小学校	https://x.gd/OLpoC	
東川町立東川中学校	https://x.gd/OLpoC	

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・ 計画通り実施できている
- ・ 一部、計画通り実施できていない
- ・ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・実施している
- ・実施していない

<特記事項>

年2回程度、各学校での特別の教育課程（新教科Globe）の取り組みについて紹介する「Globe News」を町広報と一緒に全戸配布し、情報提供を行っているほか、毎年、Globeに関する保護者・地域へのアンケート調査を行い、取り組みについて評価をいただいている。

また、年1回有識者等で組織される運営指導委員会を開催し、取り組みに関する意見や評価をいただいている。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例は、自国や地域の文化や伝統への理解を深めるとともに、異なる習慣や文化をもった人々と共に生きていくために（多文化共生）、「人間尊重の精神を基調とする国際性」を養い、「国際社会に通用するコミュニケーション能力」の向上を図ることができるよう「新教科Globe」の実践に取り組んでいる。

成果としては、児童生徒の感想から「英語が将来自分の役に立つ」「他国の人と話ができる」「他国の文化を知りたい」など、Globeが児童生徒にとって有益な学習であると実感しているようである。また、「地域アンケート」では、Globeの取組が浸透してきたということが分かる。

「保護者」の方は、「英語力を気にせず」「国は関係なく」「国籍は問わず」他国の方とコミュニケーションや仲よくなれる取組としてGlobeに期待しており、Globeの目的を理解してくれている。

一方で、Globeカリキュラムにも取り入れているが、「日本の文化を知っているか」がやや低いため、国語科、社会科、芸術教科、道徳など他教科の中で意識して学習していきたい。また、中学校進学時に同学年内での差が広がらないよう、小中の合同学習などを実施したい。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

平成30年度から、4小学校の6年生にGTEC-juniorを、中学校の全学年に英検I B Aを実施し、経年変化を確認している。（令和4年度から小学校は英検ESGに移行）

小学校では4領域（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）とも前年度の数値を上回っており、全国平均と比べても大きく上回っている。また、中学校では、1年生・2年生が英検4級合格レベル、3年生が英検3級レベルに達しており、受検率が50%を超えるなど興味・関心の高まりを実感している。

課題としては、小学校5年生になると読むことや書く機会も増え、苦手意識をもつ児童が増えている。楽しく読み書きを身につける工夫や、個への支援が必要である。

中学校では「自分の考えを英語で書けない」実体が上げられた。考えの形成は、全ての教科等において育てていきたい。

4. 課題の改善のための取組の方向性

3に示すような課題を踏まえて、今後の取り組みの重点として、以下の取り組みを進めていく。

①カリキュラムのさらなる改善と実践、地域教育資源の活用

- ・ICTを活用した授業の工夫
- ・アフターコロナでの交流活動の促進
- ・日本語学校・福祉専門学校・「東川プロフェッショナル」

②他教科・他領域との横断的な学び

- ・教科横断的な学びの推進と、Globe 別葉の活用と改善
- ・日本文化や国際的視野を他教科・他領域でも意識して扱い、教科等横断的な授業の実践

③学校間交流・異校種間交流の充実

- ・小学校の同じ学年同士のコラボ授業
- ・中学校と小学校、小学校と高校、高校と中学校、高校と日本語学校など、多様な交流